

## 【2】 研究の経過と本年度の取り組み

### 【1】 平成7年度（1年次）の取り組み

小学部では、「生活を楽しむ子をめざして」の研究テーマを受け、1年次には次のような取り組みを基に研究の方向づけを行った。

#### (1) テーマの考え方や小学部の立場を検討

小学部の子どもたちにとって「生活を楽しむ」とはどのようなことなのか、小学部の教育目標と研究テーマとの関連はどのようなのか、また、将来を見通した時に小学部の果たすべき役割りは何なのか等の話し合いを重ねていった。このことが、その後の研究のベースとなっていた。

#### (2) 児童の楽しみ方の実態把握と教師の願いの確認

実際に、小学部の子どもたちが、どのような楽しみ方をしているのか、実態を把握し、そのような子どもたちに、教師はどんな姿を求め、どんな力を育てたいのかについて話し合い、確認し合った。

#### (3) 授業づくりの視点の決定

研究テーマに迫っていくためには、子どもたちが興味を持ちながらいきいきと日々の授業に取り組むことが大切であり、中でも特に、授業中の子どもたちの「自己活動」「思考の過程」「達成感・成就感」を大切にしていくことを確認し合った。そして、そこには、題材の選定と教師の支援が大きな役割りを果たすことに着目した。

#### (4) 小学部の研究テーマの決定

以上のような経過をふまえ、小学部の研究テーマを『興味を持ちながらいきいきと活動する子』に決定した。また、副題として「題材の選定と支援の工夫」をあげた。

### 【2】 平成8年度（2年次）の取り組み

2年次には、研究の深まりを求めて、次のような取り組みを行った。

#### (1) 発達の観点にたった児童の実態把握

子どもたちの実態を把握するために、遠城寺式乳幼児発達診断検査や新版K式発達検査を行った。また、自分づくりの段階表を作成し、発達検査の結果と合わせて子どもたち一人ひとりの心理特性を分析するなど、発達の様子をより詳しく見ていこうとした。

#### (2) 題材選定の工夫

生活単元学習の単元名を大きく変更することはなかったが、研究テーマ及び授業づくりの視点を考え、含まれる題材は、子どもたちの発達の段階や生活実態を考慮し、よりの確なものとなるよう工夫していった。

#### (3) 支援の工夫とできる状況づくり

「自己活動」「思考の過程」を重視し、児童の「達成感・成就感」を満たす授業をしていくためには、教師の支援の仕方をより工夫する必要があることを確認し、特に、授業づくりのPLANの支援とDOの支援について着目した。そして、できる状況づくりをどうしていくのか、抵抗を乗り越え、生きる力をつけていくための支援はどうあるべきかを検討して

いった。

#### (4) 個人事例の追求

一人ひとりの「生活を楽しむ」像を設定し、特にその中から3人の児童について追求し研究を深めていった。

### [3] 本年度(3年次)の取り組み

本テーマ最終年度の本年度は、生活単元学習の授業づくりを中心としながら、次のような取り組みを行っていった。

#### (1) 生活単元学習の検討

研究の中心にすえている生活単元学習について、いろいろな参考資料を輪読しながら、その学習の意義や取り組みの方法について検討した。そして、研究テーマに迫るための生活単元学習のあり方を探究していった。

#### (2) 児童の発達段階と課題の理解

新版K式発達検査の結果をより深く考察し、児童の発達段階による心理特性を理解するとともに、障害や生活からくるそれぞれの児童の課題について確認し合った。そして、その結果を題材の選定や支援の工夫をする上で役立てることに努めた。

#### (3) ミクロな視点での授業分析

教材・教具や個に応じた支援は適切であるか、教師の発問やその時の児童の反応はどうかなど、授業の場面をよりミクロに見ていくことで、教師の関わり方や動き、授業づくりについての問題点を浮き彫りにしていこうと試みた。

#### (4) 家庭との連携と評価

学校で実践したことが、家庭や実生活の中に拡がりを見せるように、家庭との連携を深めていった。そして、個人事例等を通じて、楽しみが拡がっていく様子を追求・記録していくとともに、その楽しみの拡がりを研究の評価として参考にしていった。

(小坂祥子)